

票の重み受け止めた生涯

長岡で長島氏「お別れの会」

8月18日に66歳で死去した元自民党県連会長で衆院議員だった長島忠美氏を追悼する「お別れの会」が30日、長岡市のホテルニューオータニ長岡で執り行われた。長島氏が所属した自民党二階派の国会議員や、親交のあった関係者約千人が訪れ、故人をしのんだ。長島氏の「後継」として衆院選新潟5区で初当選し、同派入りした元知事の泉田裕彦氏も参列した。



長島氏の遺影に手を合わせる参列者
＝30日、長岡市

1000人参列 功績しのぶ

実行委員長の二階俊博・

自民党幹事長は弔辞で、2004年の中越地震の際に山古志村長だった長島氏が「不屈の精神と努力、粘り強さで、3年半で見事に復興を遂げた」と述べた。全村避難した住民全員の退去を見届けるまで自らも仮設住宅にとどまったことに触れ、「首長のあるべき姿だった。衆院議員としても国土強靱化の要であり、大切なリーダーを亡くした」と悼んだ。

長島氏の妻・久子さんは「票の重さを全身で受け止め、走り続けた12年間だった。男冥利に尽きる生涯だった」と振り返った。

長島氏は山古志村長を経て、05年衆院選の比例北陸信越ブロックで初当選。12年衆院選で新潟5区にくら替えし、4期目だった。復興副大臣などを歴任し、16年8月から自民党県連会長も務めた。